

No. 148号

OB・Gニュース

二〇一九年八月一日

発行責任者

社民党がんばれOB・G福島の会

eメール huruya.michitatsu@orange.plala.or.jp

署に耐えて

母百歳の

誕生日

(佐藤 次男・郡山)

## 「参議院選」を振り返り

### 地方自治の戦いを大事にしている

参議院選は公示後17日間にわたる選挙戦の結果、またもや安倍長期政権をゆるしてしまつた。そして九月に内閣改造と自民党内人事に取り組むとしている。当然にして、期待を持つ議員諸侯は「ヒラメ」よろしく官邸参りが始まるだろう。しかし、私たちはこの期間に、あらためて参議院選を振り返る「時」にしなければならぬ。

OB・Gニュース七月号で「民主主義は死んだ」と指摘をした。そこで幾つかの問題を提起したい。

この間、安倍首相の政治手法があらゆる場面で貫かれている。その一つに官邸主導で予算編成方針を決める「経済財政諮問会議」の導入があり、外交・防衛政策をさばく「国家安全保障会議」の発足があつた。さらに「霞が関」の部長級以上680人の人事を官邸主導で決める「内閣人事局」がつくられた。加えて増員された首相の秘書官、補佐官の「官邸官僚」が首相の「威」をもって国会を軽視し、「霞ヶ関」を私物化するに至つた。そのことが「安倍首相」、あるいは「官邸」に対する忖度となつて表れたことは記憶に新しいことである。

さらに官邸主導による「衆議院解散、衆・参同時選挙」の揺さぶりは、一年ぶりに開催をされた

党首討論」においても、その後の衆議院における内閣不信任」の提出に際しても、野党は同時選挙の揺さぶりに「ぶれた」。社民党の党员も、そして支持者の皆さんの中にも「参議院選一本でも大変なのに、同時選挙とは」というためらいのあつたことも事実であろう。そして悔しいが、参議院選挙の結果は自・公の与党勝利となつて終了した。

### 大嘘のオンパレードを許さない運動を

また、どうしても記憶に留めておかなければならないものに、安倍首相の「国会答弁」がある。さらに選挙期間中における印象操作の手法がある。例えば賃上げの成果である。しかし、首相の言う賃上げの「根拠」は、従業員50人以上で東証一部上場の企業を中心とした14業種60社の状況をまとめたものを用いている。さらに2012年から2018年の間で就業者が38万人も増えたこと「アベノミクス」の成果を標榜した。しかし、65歳以上の74%、70歳以上の58%の高齢者が生活費を理由に再就労をした。その就労者数が255万人以上であり(総務省・労働力調査詳細集計)、それをもつて増加と述べている。しかし、それは就職者増ではない。就労の延長である。そして、その裏には非正規、パートの大幅増がある。また「私はお約束したことは絶対に実行します」と胸

を張つた「介護離職ゼロ政策」も、年間約10万人の離職者は減る気配がない。まさに大嘘のオンパレードである。

さらに見逃すことのできないものに、防衛省の「陸上イージス」のずさんな調査を批判した佐竹秋田市長に対する「非国民呼ばわり」の発言がある。そこに、「國を守る気概を大義」とした国の政策に反する国民を「非国民」として切り捨てたかつての戦中の思想を見る。そして、その動きが安倍首相の目指す、自衛隊の「海外派兵のもくろみ」と安保法制の強化。憲法九条の改悪と共通のルールになることへの危惧と同時に、素通りすることのできない恐ろしさを痛感する。

### OB・Gの会も小さな一歩を確実に進める

より小さくなつた社民党を支持「応援をするOB・Gの会」に大きな一歩の必要はない。その脚力もない。よつて小さな一歩を確実に踏み出すことである。それは「高齢者の晩年」がますます厳しいものになつていくであろうことを身近な友人、知人に、とりわけ退職をした、また退職を控えている後輩の皆さんに語り続けることであると思う。スローガンを並べてもそれは通用しない。皆さんが「今、何を求めているのか」を知り、わかりやすい言葉をもつて語り続けることの「運動の習慣」を持つことであると思う。

最後に社民党(党员)が、そのことに党の存続に向けた「運動の習慣」の基本とすることを求めたい。

社民党がんばれOB・G福島の会

三役会議

## 受け取らない・無くなった公文書に

### 為政者の政治権力を見る!!

7月号の「無くなった公文書・それで済むのか!!」の記事について、「制度を悪くするのも、良くするのも政治の責任であること」をもっと追及すべきであったとの提起があった。(7月号ニュースを読んだ)

そこで6月28日の毎日新聞「論壇・不都合な真実の扱い方」に、年金業務監視委員会委員長を務めた郷原信郎弁護士の寄稿が掲載をされていた。その文章の要約を紹介し、コーナーへの提起に対する補強としたい。

郷原氏は述べている。「民主党政権から自民政権への移行期(10〜14年)に総務省に設置された年金業務監視委員会委員長を務めた。それは消えた年金問題を受け、年金への信頼回復を目指して外部子エックを担う組織だった。委員会は民主党政権下の厚労省を徹底的に追及。当時、野党であった自民党はそれを政治的に利用した。しかし、政権に復帰するや否や、設置期限切れに合わせて委員会を廃止した。それは『年金に関して追及されるのは避けよう』という姿勢の表れであった。それにしても、麻生太郎金融担当相が自ら諮問した報告書を受け取らないというのは異常だ。一般の企業で、経営者が経営課題について外部組織に検討を依頼し、その提言を「誤解を生むから受け取らない」と言ったらその企業への信頼は瞬時に失墜するだろう。今の政権では、上の言うことがいかに理不尽でうそや強弁であってもこれに従う。生殺与奪の権を握られた官僚、与党議員が長いものに巻かれている。常識

では考えられない。目先の利益を考えると従った方がいいということなのだ。しかし、政権の長期化によってその傾向が増幅され、それが社会の目よりも、その正否を決める重要な課題となっている」と。

### 戦前の嫌な感じ。政府をもっと監視しよう

郷原氏も述べている「自ら諮問をした報告書」を受け取らない。それだけではなく「無くなった」(森山国対委員長)ということに、「金融庁報告書から透けて見える、戦前のイヤな感じ」というタイトルの記事があった。

(毎日新聞2019年7月12日)

その記事は、さらに発展をして「安倍政権は、報告書が示す客観的な現実より、自分たちの主観的な政策や政治目標を優先したことになります。危険な兆候です。戦前日本の指導層の思考パターンと共通したものを感ずります」と、戦前思想と現代日本との関わりを論考する戦史研究家、山崎雅弘さんの報告を引用して報じている。

毎日新聞社が保管している『総力戦研究所』入所式の記念撮影」とされる写真(首相官邸前で1941年3月1日に撮影)がある。

「よく知られた話ですが……」として山崎さんがまず挙げたのが、戦前に設置された首相直属のシンクタンク「総力戦研究所」である。研究所の設置は、太平洋戦争開戦一年前の1940年。各省庁の俊英が横断的に集められ、米国と戦争をしたらどうなるか、省庁しか知り得ないデータを駆使して研究した。結果は「敗北」。「最初の数年は日本有利だが、長期戦になれば国力が

疲弊し、敗北する。だから対米戦はすべきでない」という結論でした。結果は41年8月、首相官邸で開かれた報告会で、そのことが近衛文麿首相や東条英機陸相らに伝えられました。東条は「日露戦争で日本が勝つとは誰も思わなかった。戦争では、予想外のことが勝敗を決する。諸君の研究はそうした不確定要素を考慮していない」と、結論への同意を拒み、口外を禁じました

つまり「戦うべからず」という現実より、「開戦」「勝利」という政策目標を優先させ、研究結果を「なかったこと」にしたわけだ。その後、日本がどんな道をたどったか、記すまでもないだろうと山崎さんは述べている。

今回の金融庁の報告とその扱い方があまりにも似ていないか。そして統計不正や財務省の公文書改ざんといった重大な失政でも、閣僚は誰も更迭されていません。安倍政権の事実との向き合い方は、当時政権と共通した部分があるのではないか。ニュースの読者が「政治の責任」と言うことをもっと具体的に強調すべきであると述べているのも、このことであると考える。

### 皆さんからの感想、提言、意見を求めます

「ニュースを読んで」のコーナーは141号、本年1月号から新設した。当初は送信があるか、どうかのためらいを持ったが嬉しい提言が多くなっている。しかし、その多くは事務局のメール添付の読者である。是非とも、配布をされている県内の皆さんの感想、提言、ご意見の送信をお願いしたい。



## 【ニュースを読んで】



■ニュースが届きました。こうした活動が継続され、社民党が支えられていることについて、社民党としてどのように評価するのか。あるいは、党活動にどのようにして取り入れていくことができるのか。私はもつと真剣に考えるべきだと思います。地方議員も含め、議員活動だけが党活動ではないことは言うまでもないことです。しかし、全国的な現状は、議員活動があつて党があるようなことになっているのではないか。だから、地方議員のいないところ(市町村、県)は組織的危機です。党員が二けたしかない県がいくつもありますが、もつと真剣に考えるべきでしょうね。

■原発事故後の課題の多さと、歳の重なりに歯がゆさを感じますが、先ずは今年の選挙に力を注ぎたいと思います。

■小生も8月に福島市の「無料バスパス」の支給を受けますが、自家用車との併用はまだまだ実感出来ません。高齢者の事故のニュースのたびに考えさせられます。

■「支持政党なし」の心をいかに掴めるか、それしかないと思っています。そのために、イデオロギーは横に置いて、暮らしてお金に絞り込んだ宣伝活動を続けています。

■毎回、読者からのお便りが充実しているのを読み、わがことのように嬉しい気持ちがあります。やはり、読みつづばなしではなく、応答がある

と、印象が変わります。読者の声が掲載されると、読者との交流が紙面の印象にも一体感をもたらすのではないのでしょうか。読んでいて思うのは、やはりマスコミがきちんと機能していない、ということ。先のハンセン病の家族訴訟の扱いにしても、NHKはきちんと物事を伝えていない。G20にしても、各国の問題点をあげつらったり、韓国の「孤立」ぶりを物笑いにしたりと、「政権目線」でお追従の報道をしているのが目立ちます。記者が外務省からしか取材していないので、安倍政権の「外交の失敗」が見えてこないのだと思います。

■免許証返納のニュースの記録、貴重だと思いました。各自自治体の奨励の扱いが、こんなにも違うのですね。ただ、一回限りだとすぐに使い終わってしまい、効果は限られると思います。額はわずかでも、「持続可能」な割引にすれば、ご本人は助かるのではないのでしょうか。私自身は数年前に運転を断念したので、ほとんど不便は感じていませんが、長年運転をしてきた方は、その落差がこたえるだろうと思います。自動車がないのが当たり前前の時代には、考えられないことなのかもしれません。でも、その落差が現実にあるということ、出発点にして改善を図るしかないと思います。昔、源氏鶏太の小説に「三日・三月・三年」がありました。それぞれが、ちよつと慣れてきて、しくじりやすい節目、という趣旨の小説でした。先日、母や兄と話をしていたその小説が話題になつたばかりなので、「ニュース」との思わぬ符合に、ちよつとした驚きを感じました。

■今回はかなり身につまされる内容でした。「コーヒータム」にあつた紙おむつの話は初めて聞くことで、なるほど高齢者の出すおむつは、赤ちゃん4倍の重さになり、「大人のおむつ」処理問題は深刻な問題ですね。年金問題についての指摘もリアルで、社民党は名実ともに「高齢者福祉党」を名乗った方が、この世代の代表として票をとれるのかもしれないなんて考えてしまいました。

■いよいよ参議院選挙、社民党が政党であり続けるためにも頑張つて欲しいです。紙おむつの問題、深刻ですね、はじめて知りました。公共の足を守るも読みました。交通網が発達している首都圏と違い、ほんとに深刻ですね。私も実家へ帰ると、車がない限りどこへも行けません。コンパクトシティーを目指したいですね。

■やつと梅雨入りを迎えました。28日の金曜日は、「ハンセン病家族に賠償」の判決を聞きに熊本に行つてきました。「勝訴」の字幕を見たとき、右ごぶしを突き上げていました。字幕を持つ弁護士や元患者や家族の皆さんの目に涙があふれ、祝福するように青空が広がっていました。選挙戦もいよいよ日程が決まり、全力を挙げています。市議会議員のノルマと同じ300票をと、頑張っていますが今のところ半分ぐらいです。選挙に行けない、亡くなった人など、思うようにはゆきません。合間を見ては、街頭演説を打つたりしています。共に頑張りましょう。

■過去の職場の退職者で組織する退職者協議会の総会があり、家内を施設(ディーサービス)に

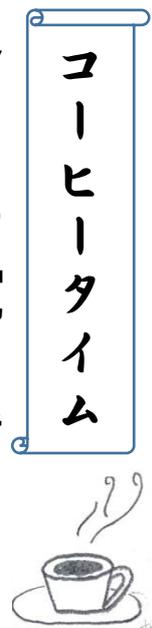
お願いして参加し懇親を深めてまいりました。今後ともニュースを拝読し、先に進みたく存じます。

■読者からの「ニュースを読んで」の声が届くのは、長年の発行してきた努力の賜物だと思えます。読者参加の誌面がこれからも続くことを祈っています。参議院選挙ですが、茨木のり子さんの詩に「ぽさぽさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠っておいて」があります。私なりに「社民党の支持者が減っていくのを、ひとのせいにするな、自らの行動を怠っていて」と自分に言い聞かせています。

■継続的なニュースの発行ほんとお疲れさまです。高齢者の足確保ニュースも拝読いたしました。毎号、現在の政治状況、社会状況を的確にまとめていただき、隅々まで拝読しておりますが、7月号では「日本の民主主義は死んだ」の一言が突きささりました。ほんとにそう思わざるを得ない状況にあると感じています。森友問題も加計問題も、公文書の隠蔽・改竄も全てが民主主義の土台に関わる決して許してはならない問題のはずですが、そんな議論も報道も不発のままです。安倍政権は平然と「由らしむべし知らしむべからず」の姿勢で政治を私物化しています。今回の参院選は社民党にとって非常に重要な意味を持つ状況であること理解しました。また、同じように、日本の民主主義が「完全に死んだ」のかどうか、崖っぷちのように思います。

■いよいよ参議院選です。何か不安だけが去来しますがやるだけのことをしないと。ニュースの2

面の件です。制度をつくり、(そして)財政を理由に改悪したのも、国民本位に(制度)つくるのも政治です。そこを強調して欲しかったです。



### 今・あらためて「飢え」を考える

豪雨、日照不足、冷温続きと今年の梅雨は荒れている。稲田も本来であれば7月には一旦水を涸らし、そして再び水を取り入れる必要がある。しかし、今年は稲田の水は無くなっていない。

敗戦後のあの時期、腹をへらしていた私たちのとつては、73年を経た今でも「米作の出来・不出来」に異常なまでの強い関心を持つ。さらに空襲で親を失い、兄が妹二人の手をつなぎ上野の駅前にたたずむ。その近くで「おにぎり」を手にしていた私をじつと見つめていたあの姿も忘れることができない。そして今、「飢え」が形をかえて現れていることにあらためて悲しみを強める。2歳の子どもに「海苔巻き一本」を置いて家を飛び出した母親のニュースがあった。私にも2歳の「ひ孫」がいる。その女の子も家に来てジュースを飲みたくなると、私ところに来て膝に抱かり「爺、大好き」と言う。おねだりの言葉である。母親に捨てられた子が、そのひもじさと寂しき、恐ろしさにとどのようになしぐさと言葉を発していたらどうか。

そして、学校の給食が唯一の補給源となっていて多くの子どもたちが開設をされた「子ども食堂」に集る。そこに一人暮らしの高齢者が顔を出

すとの報道を見る。そして「飢えと育児放棄・親への扶養放棄」が多くなっていることに悲しみを覚える (降)

### …両市議選全員当選…

#### 福島市議選の結果

- 梅津 一匡さん (三期)
- 沢井 和宏さん (二期)
- 羽田 房勇さん (五期)

#### 白河市議選の結果

- 石名 国光さん (五期)

### …若松・須賀川・郡山の

#### 市議選を応援しよう…

#### ◆若松市

- 公示：七月二十八日
- 投・開票日：八月 四日

#### ◆須賀川市

- 公示：八月 四日
- 投・開票日：八月十一日

### …市議選に勝利し

#### 県議選へ…

#### ◆福島選挙区

#### ◆いわき選挙区

#### ◆郡山選挙区

- 公示：十月二十八日
- 投・開票日：十一月 十日